

# INFORMATION

## エカテリンブルグ人形劇祭 (ロシア) genre\_gray が招待参加！

人形遣いの黒谷都さん率いる人形演劇プロジェクト genre\_gray は、今年9月にエカテリンブルグの州立人形劇場で9月12日から16日まで行われる人形劇フェスティバルに招待されることになりました。羽関も訪問メンバーの一員として招待され、随行することになりました。



18日と19日にはモスクワでも公演を行います。人形劇の本場での genre\_gray の随行リポートは次号に掲載いたします！

フェスティバル 公演予定作品  
上「顔のモノ語り」演者：黒谷都  
下「鳥のものがたり」演者：北井あけみ



## 各地の郷土人形や作り手について情報募集！

チーム・コヤーラでは、日本人の人形の原点、全国各地の郷土人形の作り手や実態に関する資料を収集したいと思います。リーフレットやメモ書き、写真など、どんな方法でも構いません。こういう人形が日本にあるんですよ、と思い当たる情報がありましたら、チーム・コヤーラ事務局までお寄せ頂ければありがたく思います。

期限はありません。情報お待ちしております。



九州の郷土人形「べんた人形」

### コヤーラ・クラブ入会条件

入会金なし 年会費：2000 円（更新時に2年分一括払いの方は3900 円となります。）  
年4回（1・4・7・10 月）のチーム・コヤーラのニュースレターとDM便が届きます。

### お申し込み方法

年会費 2000 円を以下の方法でご送金ください。  
【郵便振替】 通信欄に「コヤーラ入会」とお書きください。  
送金先 「口座番号」 00140-7-358370 「口座名」 チーム・コヤーラ  
※ご入金が確認できたらチーム・コヤーラよりハガキで受領証と会員証を兼ねたお知らせをお送りし、次の号から「コヤーラ通信」をお送りします。更新時には、有効期限内の最後の号を発行するときに、更新のお知らせを同封いたします。

### DM同封希望の方（発行月から3ヶ月の間に展覧会を予定されている方）

事前に枚数などお問い合わせの上お申し込みください。同封DMは発行月の前月20日にチーム・コヤーラ必着でお送りください。  
同封料金 コヤーラ・クラブ会員：2000 円 一般（非会員）：3000 円

### 紙上展応募の方

会員の方の人形の自作品の写真を受け付けております。  
19 号 〆切 2014 年 9 月 1 日（必着）  
以下を下記まで、郵送かメールでお送りください。

### 【ART OF DOLL】【HELLO TEDDY!】出品希望者募集中

12 月にロシアで開催される創作人形、ぬいぐるみのイベント。チーム・コヤーラ枠で出品ご希望の方は個別に相談に応じます。10 月末日まで随時お問い合わせを受け付けます。同封のアンケートでご希望。お問い合わせ内容を記入の上、お送りください。

### 2015 年春 ドイツ

### ティディベアと人形の国際的なイベント同時開催！ 2015 年 4 月 25・26 日開催 出展者募集中

ティディベア・トータルは 1995 年以来ドイツで毎年4月の最終週に行われているもっとも重要なティディベアの見本市。2015 年から国際的な人形展、スピリング・ドール・フェスティバルも同じ会場です。

会場：ミュンスターランド見本市会場  
（ドイツ・ミュンスター）  
主催：TEDDYBÄR TOTAL  
Spring DOLL Festival



コヤーラ通信を手にするティディ・ジョージ・ベア・トータルとスプリング・ドール・フェスティバルの主催者です。チーム・コヤーラも協力しています。

### 【TEDDYBÄR TOTAL】ティディベア・トータル

25 カ国以上から 300 を越える出品者／ドイツのすべてのティディベア企業が参加／材料品の出品も充実／有名な「ゴールデン・ジョージ」賞コンテスト／トップ企業によるアンティークベアの展示  
teddybaer-total.jp.com

### 【SPRING DOLL FESTIVAL】スプリング・ドール・フェスティバル

2015 年から国際的なドールフェアとして開催されます。10 カ国から 150 を越える作家が出展予定。  
ドールアート、ホビードール、ビスクドール、参考展示、講習とレクチャー  
springdollfestival.jp.com

### 第2回クラフトアート人形展公募 応募者募集中

【本審査会場】大丸心斎橋店 南館8階美術画廊

【会期】平成 26 年 2 月 19 日～24 日

【費用】エントリー 一人 2000 円

1 次審査通過者出展料 単体出品：7000 円／1 体

1 ブース出展：30000 円 1/2 ブース出展：20000 円

【応募方法と〆切】FAX または郵送 7 月 31 日エントリー締切

（書類審査期間は 10 月 1 日～11 月 30 日）

【主催・問い合わせ先】株式会社マリア書房 クラフトアート人形コンクール係  
〒602-8014 京都市上京区室町通り下立売上 TEL 075-432-1201 FAX 075-441-2923

作品写真 2~3 点（全体・アップ・裸形） サイズ：ハガキ大。  
「会員番号」「作家名」「タイトル」「素材」「サイズ」他、簡単なコメントなど。  
※何点でも応募できますが、誌面の都合上掲載はお一人1点になります。  
※応募作品はウェブ上で公開されることもあります。（講評は紙面のみ掲載）  
※応募書類は返却いたしません。

### 個人情報について

頂いた個人情報はチーム・コヤーラの業務委託を受ける HAZEKI office が厳重に管理します。名簿はチーム・コヤーラのニュースレター発送に使用させていただき他、チーム・コヤーラの趣旨に沿ってDMクラブ会員にとって有益と判断した情報を伝達する以外には一切使用せず、チーム・コヤーラ以外の第三者が閲覧、使用することは一切ありません。

### 各お申し込み・連絡先

チーム・コヤーラ  
東京都東村山市久米川町 3-27-57 HAZEKI office 内  
TEL 042-395-7547（担当 ハゼキ）  
FAX 042-395-7975  
URL <http://www.ab.auone-net.jp/~koyaala/>  
Email [team\\_koyaala@yahoo.co.jp](mailto:team_koyaala@yahoo.co.jp)

KOYAALA 通信 編集責任者 羽関チエコ (HAZEKI office)  
©KOYAALA TSUSHIN 2010, printed in Japan 本紙記載の記事・写真の無断使用・転載を禁じます。



# KOYAALA 通信 No.18

Jul.15, 2014



「KOYAALA 通信」は、チーム・コヤーラがコヤーラ・クラブ会員に発行するニュース・レターです。年4回発行 発行日（予定） 1月1日、4月1日、7月1日、10月1日

## 第2回創作人形公募展 第一次審査発表

第2回創作人形公募展〆切である6月30日までに、前回とほぼ同数の応募がありました。チーム・コヤーラでは写真と実作品の違いをよく認識しており、状況が許す限り実作品の展示で審査をすべきと考えています。その考えを踏まえて7月4日に厳正に審査させて頂きました結果、下記の方々が第一次審査通過となりました。

### 出品予定者

ゆきち／柴崎弘子／KINO4TA／小林久仁子／髪結び辰乃／KANA／En／Minagawa Dolls／新家智子／月夜野いん子／タミコ・キム／中川京子／白砂かけ／高谷義則／土井千尋／細貝まい／廣安瑞枝／deeper-bj／成瀬麻里子／Ryoko ~needle felted art~／上妻どり／ゆき姫／ちゃお／白川行雅／大八木ミノル／是空／西島礼子／佐々木英俊／原田万紀／漆晶子／chika／たつきー／伊川まり子／葉／尾花智子／家久人敏生／凜音／中村周子／クサボン／ほびつと工房／赤司知彩／足立恵／コンデクレン／グロツスマンリナ／石川まにゃ@／なべ／ユズミコ／横瀬和江／ROKU／HANGAI JUNKO／かをり／福泉久美子／月乃光／和田秀明／多寿姫／風らい坊／大嶋亜南／渡邊良弘／池谷基（以上 59 名 順不同）

### チーム・コヤーラ主催 第2回創作人形公募展

2014 年 9 月 2 日（火）～7 日（日）

10：00～17：30（最終日 15 時閉場）

会場 NHK ふれあいホールギャラリー（東京・渋谷）

主催 チーム・コヤーラ

### 【審査員】

四谷シモン／よねやまりゅう／矢部藤子／羽関チエコ

### 【賞】

1- チーム・コヤーラ賞（1 名） 賞金 1 万円と賞状

2- 審査員賞（4 名） 各審査員の個人賞 賞金 5 千円と賞状

3- 奨励賞（5 名） 賞状

4- コヤーラ・フェス賞 賞状 （会場の一般投票により、最終日に発表）

### 【受賞発表】

1, 2, 3 は 1 日に懇親会場で発表。

4 は展示最終日に会場の投票を集計し、閉場前に会場での授賞式で発表します。

また、結果はチーム・コヤーラのウェブサイトとコヤーラ通信にて発表します。

### 【出品作品講評】

羽関在廊時に、ご希望に応じて会場で公開講評させて頂きます。

### 受賞パーティ・懇親会（要予約）

コヤーラクラブ会員の方、出品者でない方も、会員の同伴の方は参加できます。受賞作品をはじめ、展示作品をモニターで見ながら人形談義。会員同士の新しい出会いもあります。ぜひお気軽にお申し込み下さい。

9 月 1 日（月）19 時～21 時（予定）

会場：渋谷 bar Jack 会費：3500 円

審査結果発表・受賞式・各審査員による審査講評

ご予約〆切 8 月 8 日（金）

参加希望者の方はチーム・コヤーラ事務局まで電話・E メールでお申し込みの上、一週間以内に参加費をチーム・コヤーラの郵便振替口座にお振込ください。  
※止むを得ない事情でない限り、前日までに連絡のない場合は返金できませんのでご了承ください。



初雪を見上げる少女。新家智子さんのストーリー性のある人形はロシアでいつも完売。確実にファンを増やしています。（ペラルーシ共和国 Pannna Doll）  
FANTANIMA! in 2013 でフェルトドールで確かな実力を認められました。Koropokkur さん。プロとしての今後の活動に期待です。（FANTANIMA! in Tokyo）

## チーム・コヤーラの創作人形公募展や公開講評会から活躍をはじめている人たち！

チーム・コヤーラの創作人形公募展は、賞がすべての評価ではありません。

多くの応募作品のなかで個性を発揮している作品、チャレンジ精神が旺盛な方など、既にチーム・コヤーラの企画を通して経験を重ね、それぞれの道を目指すきっかけとされています。

受賞を逃した方も、内容の良い方、継続して作品が成長されている方、チャレンジ精神のある方を、チーム・コヤーラのイベントや協力企画にスカウトさせて頂いております。

チーム・コヤーラの公募展の審査は応募した時点から展示が終わった後も、ずっと行われているのです。

そして、チャレンジされた方はプロの現場で実績を重ねながら、確実に成長されてます。



（左上）中村周子さんの布のカラフルなウサギの人形は FANTANIMA! 会場入口で、全体を活気あるムードに盛り上げました。（FANTANIMA! in Tokyo）

（右上）ニードルフルトの技で生き生きとした動物の愛らしさを描く deeper-bj（FANTANIMA! in KANSAI）

（左下）福岡で活動しているクサボンさんは、東京の FANTANIMA! で初展示。チーム・コヤーラのスタッフにもなり、今後の活躍の枠が広がります。会場で着ぐるみを来てワークショップ、エンターテインメント色が加速しそうです。（FANTANIMA! in Tokyo）

# REPORT



**fantasy+animal=FANTANIMA!**  
**不思議可愛い作品の世界**

FANTANIMA!2014!  
4月30日～5月6日 丸善丸の内本店ギャラリー  
5月15日～6月10日 大阪 書肆 LUFF アラビク、乙女屋（乙女屋は3日まで）

## チーム・コヤーラの挑戦

昨年に引き続き、第2回 FANTANIMA! が、東京と大阪の会場で開催されました。  
東京では日本在住作家 36 名、海外の作家 48 名、総勢 84 名による出品がありました。  
ロシアからはティディファン主催者のオルガ・ラヒナと作家数名、ウラル創作人形協会（UDAA）のエレナ・リシナが来日しました。  
関西では海外作家を中心に、日本人作家も数名参加しました。  
技術はもちろんですが、発想やユーモアでそれぞれの作品の個性が競いあい、とても活気のある展示になりました。  
2 回目の今回は FANTANIMA! の名前とイメージが定着したようで、これを楽しみに来場される方が多く会場は大変な盛況でした。

この企画は、羽関オフィスとチーム・コヤーラが共同で立ち上げました。  
海外の作品についてティディ・ファン、UDAA、青の羊、チーム・コヤーラのモスクワスタッフの協力を得ました。  
通常の展示会では、知名度や固定客のある作家や企画でないと集客が難しいものです。その点では、FANTANIMA! はほとんどゼロスタートでした。  
しかし確かな技術で動物のいとおしさを豊かに表現した作品の数々は、初めて見る人も、このような作品に関心がなかった人の足を止める力をもっていました。その点でロシアをはじめウクライナ、リトアニア、エストニアなどの海外作家の作品は刺激的です。ロシアのアーティストのぬいぐるみ界を牽引してきたジレンキナ、石までもベアにしてしまうエストニアのダビデンコなど枚挙にいとまがありません。  
これは、膠着しつつある今の創作人形が、かつて放っていた光のようなものだと思います。会場を訪れる人形作家の方からは、自由な表現に刺激を受けたという声が聞かれました。

また注目すべきは、新人の活躍がめざましいことです。作家歴は浅くとも、デフォルメする際の観察とユーモアのセンス、技術においてきちんとした仕事をされている方の作品は、正しい評価と結果を得ていました。一面でもふれましたが、チーム・コヤーラの公募展に出品された方も活躍しました。また、出品を目標とする制作者の方も出始め、アピールを受けております。

現代の日本の人形界では、顧客の要望や欲望に直結したものが市場の主流を占める傾向があります。そのなかで、クオリティと品性を保ち、ブランドとなるのは、難しいことです。その挑戦に FANTANIMA! は成功したといっ  
てよいでしょう。  
東京の丸善丸の内本店ギャラリーのスタッフの方にも、大阪のアラビク、乙女屋の皆様にも愛される企画となりました。  
出品作家の皆様、関係者の皆様、楽しみにしてくださるファンの皆様のすべてに深く感謝いたします。

来年の会期は東京の会期は 4 月 29 日から 5 月 5 日に決まりました。  
どうぞ、お楽しみに。(H)



左：FANTANIMA! 2014 のマスコット、ファニマ2号はクマとアリクイのハーフ。制作 青の羊  
広報、作品の紹介に大活躍した。  
右：大阪のアラビクの広報部長ファニムス。ファニマと一緒に作品に絡んでの大阪弁でのやりとりで、  
ツイッターを通して FANTANIMA! ファンを増やしていった。ウクライナのジャコノヴァ作（アラビク）



写真上 左：Noe 新作の狐りりいは関東、関西で大評判に。 中：UDAA のエレナ・リシナの  
「おやすみ」シリーズ 右：クリベンコのチェブラーシカ。哀愁漂う愛らしさがなんともいえない。



FANTANIMA! で購入された kimiko さんの  
作品は、エストニア児童文学センターで展  
示された。

東京では今ひとつだったミレツキーの幸福ガエル  
「ラケルタ」は大阪で人気沸騰。東京と大阪の反応の  
違いが明らかにでた。(乙女屋)



不可思議なものも人気があったのが今回の特徴。鏡の顔を  
もつ沼地の妖精はリトアニアのシンコウスカヤの作品

FANTANIMA! 初参加で大人気だったし  
ろさんの作品 (丸善)



(左) 来日したアンナ・ダビデンコのワークショップは連日満員 (丸善)  
(右) オープニングでは、出品作家 Mile Paxton さんのダンス・チーム、グレート・ブレーンズとビコビ  
コ・トムラアツシサンの怪獣ベッコスが館内を練り歩き、ダンスを披露した。

## SIMONDOLL 四谷シモン展を見て

羽関チエコ

2000 年に開催された「四谷シモン 人形愛展 SIMON PYGMALIONISME」（大分市美術館ほか 5 カ所巡回：大分市美術館）は、日本の人形界にシュールレアリスムとエロティシズムをもたらした四谷シモンの全仕事を可能な限り網羅し回顧することがひとつの目的だったと思います。  
今回の「SIMONDOLL 四谷シモン」展では厳選された 46 点が、生涯のテーマに沿って 6 章にわけて展示されました。シモンの思想や境地を象徴する作品が、過不足なく簡潔に配されています。四谷シモンが好む飾りのない潔さ。最小限に抑えた解説文。白と黒の空間で、屹立する人形と心おきなく対峙することができる会場構成でした。  
2000 年の展示との違いとして感じたのは、人形師として生きる現在の四谷シモンを生き生きと感ずることができる展観だったことです。

1970 年代のアングラ文化全盛時に状況劇場の花形女形でもあった四谷シモンは、異端の寵児とみられていました。しかし敬愛する澁澤龍彦が 1987 年に他界すると、精神的支



柱を失い、祈るように天使の作品をつくるようになります。  
1988 年制作の「天使—澁澤龍彦に捧ぐ」は会場でもひときわの存在感を放ち、続いて制作される四谷シモン自身を思わせる聖人の頭像が並ぶ展示空間は、あたかも聖堂のなかにいるような静寂を感じました。頭像がこれだけ並ぶのを見るとサロメのエピソードが連想されます。そして「身体を作らない時期がこれだけ続いたのだ」と再認識しました。  
毎年欠かさずに行うエコール・ド・シモン展の出品を通して、人形は身体を取り戻していったように記憶しています。異端の役者は自分の本質ではないとし、人形作家としての精神的模範を江戸や大正時代の人形職人に仰ぐようになりました。作品も「人形は可愛くなければならぬ」という人形の性質に回帰しているように思えます。  
最近作の「ドリームドール」の表情の涼やかさ、品の良さ、愛らしさ。氏の心境の象徴でしょうか。何かから解放放たつつある爽やかな明るさを感じます。

この展覧会は四谷シモンの人形を二分する境界として「天使—澁澤龍彦に捧ぐ」を据えたという見方ができるかもしれません。「天使」以前はベルメールへの憧れ、エロティシズムや機械的な身体の追及。「天使」以降は、苦悩の制作時代、深い内省、木杵の少女達。そして最近作の「ドリームドール」に至り、その柔らかなパワーが 1988 年の「天使」と響きあう。これは現在の四谷シモンを体感させる展覧会で、2000 年の回顧展とは意味が明確に異なる展覧会とも言えるのです。

本展の図録を兼ねる『SIMONDOLL』（求龍堂）の八田政広の写真についてを付記します。かつてシモン作品の紹介には、篠山紀信の写真以外考えられないと思っていましたが、性格の異なる伸びやかで透明感のある八田の光が今回の展覧会の方向性を強く印象づけたと思います。  
会場で行われた人気投票では、一位が「天使—澁澤龍彦に捧ぐ」、二位が「ドリームドール」だったとのことで、これは偶然の結果ではないように感じられました。

SIMONDOLL 四谷シモン 5月31日～7月6日 そごう美術館（横浜）

**2014年10月11日（土）～11月30日（日）の日程で  
西宮市大谷記念美術館に巡回**

## ドールワールド フェスティバル

6月21・22日 東京都浜松町都立産業貿易センター5階

6月21.22日に開催されたドールワールドフェスティバル。昨年よりも多くの来場者があったとのことで、初日は行き交うのも困難なほどの大賑わいでした。会場内には大豆ほどのサイズのルーベを使って見るような小さく精巧な人形、グラスに入ってしまうほどの人形など、小ささの中にもキャラクターがありユニークさのあるものがみられました。チーム・コヤーラでもおなじみの長谷川裕子さんは木彫りと子供という点は同じでも、片手に収まるほどの小さな人形を多数出展。同じような姿形であるもののそれぞれの表情があり、まるで古民家に突然現れた座敷童のようにも思えました。ここ近年では、人形から動物作品へ移行する方や、ミニチュアドールを制作する方が多く見られるように思います。  
会場内では数カ所ワークショップが行われ、こちらも盛況でした。  
チーム・コヤーラはスタッフの UNIVERSALPOOYAN、中村周子さんの作品と FANTANIMA のロシア・ウクライナ・リトアニアのぬいぐるみ作品を出展。丸善での展示会をご覧いただいて再会したお客様も多く見受けられ、その偶然を喜ばれていました。両日とも、人形への愛に溢れたお客様・作家さんたちで和やかで活気あるフェスでした。(N)

出品などのお問い合わせ先

ドールワールド実行委員会 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-11-8-5F  
TEL/FAX 03-6679-1486 <http://www32.ocn.ne.jp/~japandollworld/>  
Email [mikuni-bd@nifty.com](mailto:mikuni-bd@nifty.com)

長谷川裕子さんの新作。  
手のひらサイズです。



チーム・コヤーラのブース（2日目）

